



以森伝心

No.
35

理事長 柏原康夫筆

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

卷頭特集

社寺建築と森

変わるもの、変えられないものを見据えて



特集2

森林の現状を考える 林業と森林

インタビュー 和田 泰行氏

■京都の森の仲間たち

NPO法人 里山ねっと・あやべ

■豊かな森を次世代へ

第40回全国育樹祭開催に向けて

全国育樹祭1年前キックオフイベント「育樹祭in宇治」開催
綾部市 堀徳さん 緑の少年団育成功労賞受賞

社寺建築と森

変わるもの、変えられないものを見据えて

古都京都には、時代の文化を示す文化財が数多く残されています。こうした文化財を形作るのは、我が国の高度な技術と美意識を誇る木造建築。その中でも社寺建築はその集大成と言えます。創業以来一貫して社寺建築に携わる株式会社奥谷組の千田社長に、文化財と森林のかかわりについて伺いました。

変わらぬ姿を受け継がれてきた文化財

文化財には千年以上その変わらぬ姿を受け継がれてきたものがあります。こうした木造文化財は定期的に修理をされてきました。しかし近年、大修理に使われる大木が減り、確保が難しくなっている現状があります。

「修理に必要な木材を供給する森の姿は時代ごとに変遷を遂げてきました。国指定の文化財の修復では、もともと使われている材と同じ種類のものを使うこととされていますが、森林の状況もかわりすでに入手が困難なものもあります。歴史的に見てみれば、社寺には特定の樹種でなければいけないというようなことはありません。その時代に入手可能な材が使われており、地域によってもばらばらです。



教王護国寺大日堂／株式会社奥谷組提供

日本書紀で「宮殿にはヒノキが良い」とされているのは、扱いのよさと入手のしやすさを考慮したことだと思います。道具も今ほどは発達していない当

時、夏目、冬目の違いや適度な脂分によるカンナのかけやすさなど、材として扱いやく、水に強くて長持ちするヒノキは重宝されていたということだと思います。」



色の濃いところが冬目、薄い部分が夏目

文化財を通じて見る国内の森林の状況の変遷

「平安時代には、関西はヒノキの原生林が豊富にあったため、都の造成に活用されてきたと考えられます。桃山時代以降は大きな木の入手が難しくなっていき、江戸時代に真宗や浄土真宗系の大規模な社寺が建造されるころにはヒノキが入手困難となり、ケヤキが多く使われるようになりました。重要文化財である妙心寺の法堂に静岡県御殿場のケヤキが使われているというのも、身近な山では必要な材が貯えなくなつた状況が読み取れます。文化財に使われている材を見ることで、国内の森林の木材の供給状況が時代によって大きく変わってきたことがわかります。」

「昔から三大美林といわれる木曽、秋田、青森は、高地で木

材の搬出に不便だったり、人口密度が低いため木が伐採されずに残ってきたところからその名を馳せました。京都近辺はヒノキ、山陽地方はマツ、九州はスギ、というようにそれぞれの地域ごとに樹種に得意分野がありました。

京都では北桑地域から出てくる材は非常に目の詰まった木で、ヒノキの産地として適していたのだろうと思います。都の造成との関係でいえば、渡月橋のあたりが貯木場で、山村から出された木材が貯め置かれ、使われてきました。製材所も市内に多くありました。昔は京都にも松だけを取り扱う市いちばがありましたが、今はもうありません。」



準備されたヒノキ

り、これから大径木の入手は非常に困難な時代になってきています。それでも、コンクリートのお寺よりは木造の姿を残したいと、木材の質にはこだわって、建造や修復に関わってきました。」

「こうした状況の中で、自ら文化財の修復に必要な森を育てようとしている社寺もあります。大変素晴らしい取り組みだと思います。」

私も森を買いませんかと言われたことがあります、実際に木を植えても使えるのは何代もあと。すぐに収益をあげようとすれば大きな木を残すという選択はしづらい。百年、二百年という時間の流れで考えたときに、一個人では困難にぶつかると思います。」

文化財は、森の恵みである木材により長く維持されてきました。一方、社会構造の変化から、森の恵みを上手に活用する日本古来の暮らしは失われつつあります。

私たちが長く受け継いできた木造文化を、これから次世代に伝えていくときに、森の姿と私たちの暮らしを考えることは不可欠ではないでしょうか。



貯蔵されている大径天然木。既に入手は難しいものも

変わらないものを伝えて いくために

「現代の文化財修復のための木材の調達には、品質にこだわれば国外にも求めざるを得ないことも多く、材の産出地の変化は世界規模で目の当たりにしてきました。北米地域から米松、米ヒバ、台湾ヒノキ、ラオスヒノキなどと移り変わってきました。現在は、天然林の伐採はワシントン条約による規制などでどこも難しくなってお

お話を伺った方

せん だ ひ で お

千田 日出雄さん（株式会社奥谷組 代表取締役社長）

PROFILE

和歌山県出身。京都大学工学部建築学科卒。一級建築士。清水建設株式会社を経て株式会社奥谷組。平成4年より同社代表取締役。京都府立林業大学校特別教授。

同社は社寺建築・古建築の設計、製材から施工までを取り扱う。平成9年京都府より「京の老舗」として表彰。



同社本社（京都市南区）にて

伝統文化を支える森づくり

清水寺 執事補 大西 皓久さん

平成12年、御開帳の記念として京都市北部の花背、京北、舞鶴市で山林を取得し、将来の清水寺の補修のための森づくりをしています。現在山林の面積は約100haほど。スギやヒノキのほか、「清水の舞台」の柱に使われているケヤキも植えています。実際に使用できるようになるには20年以上かかりますが、誰かが始めなければなりません。試行錯誤しながらではありますが、将来の世代に失敗だつたと言われないよう取り組んでいます。



花背のケヤキの植林地



清水寺 執事補
大西 皓久さん

5年後、10年後の、人のいなくなつた
山村の姿を考えるとき、森林は誰が守るのか、
本気で考えなければならぬ時期に来ている。

京都府
林業士会会長 わだ やすゆき
和田 泰行さん



森林の現状を考える—林業と森林

北山杉で有名な北山地域で磨き丸太の育成・販売を手掛けてこられた和田泰行さん。
京都府林業士会会長として後任の指導等にも当たられています。
林業経営の立場から見た森林やモデルフォレストのあり方についてお考えを伺いました。

—— 林業士会というのはどのような団体ですか

地域の模範となる林業経営を行っている、林業後継者の指導ができるなどの要件について知事の認定を受けた指導林家と青年林業士の集まりです。地域の森をどうするかといった計画づくりの取りまとめ役を担ってきました。会のメンバーは、自ら山を持ち、自分で手入れをしている者が多いです。後継者育成の面では指導や助言、森づくりコンクールや研修なども行っています。

——これまで関わってこられた中での林業の変遷についてお聞かせください

林業の現状は、この半世紀で大きく変わりました。私が林業に携わってきた北山の集落でも、マツタケを含む磨丸太、素材などの林業の売り上げが集落全体の約



府立林業大学校の北山杉枝打ち実習。林業士会が指導
20億から約1億円まで落ちました。

需要を見れば、京都府内での住宅の建築戸数は約1万7千戸で、半分近くが木造、うち多くが外材とすると、国産の木材を使った家は少数、府内産の材が使われるのはごく一部ということになります。また製材所も昭和50

年頃から減ってきました。プレカット工場はあるが扱っている多くは外材。また、設計で府内産材を使おうと思っても、木材卸問屋が扱うので工務店では木材は直接買えません。そもそも流通で打破していかないといけません。このように、手間をかけて育てられた昔ながらの国産の優良材が価値を生まない仕組みになってしまっているのです。

また、森林を守る側の山村の現状としては、田舎に担い手がいなくなりつつあります。地元で空き家対策のリーダーをしていますが、なんとか担い手世代が田舎にいてくれるような方策を考えているところです。地域の担い手がいなくなれば林業どころではないですから。5年後、10年後の、人のいなくなった山村の姿を考えるとき、森林は誰が守るのか、本気で考えなければならない時期に来ていると思いますね。そこでモデルフォレストです。



宇治の現場で

京都のモデルフォレスト運動への思いは

「協働」という言葉の使い方をもっと広い意味で提えて欲しいと思います。ボランティアや企業の

林大生取材レポート

宇治で伐採されている現場での取材に同行させていただきました。作業着で熱く語る和田会長の話は、さすが京都の林業を長年支えてきた人だなと感じました。和田会長は「まずは、木材を使うことで森林が潤うことを知ってほしい。森林は林業という一業界だけのものではなく、都市部の人々もCO₂の吸収による温暖化の防止や土砂災害の防止、水源涵養などの恩恵を受けている。様々な企業や市民が森林に入りボランティア活動で間伐や植林するのはとても素晴らしい活動だがそれだけに留まつては限界がある。林業界の実情と森林の多面的機能を知つてもらい、木材を積極的に使ってほしい。」とおっしゃっていました。モデルフォレストの活動とはどうあるべきかについて考えさせられる一日でした。

協会広報ボランティア、京都府林業大学校 鮫島 達矢

方々と地元の人が一緒になって森林整備活動をすればそれで終わりというのでは眞の意味の協働ではないのです。

林業においては川上、川下という言葉が使われますが、例えば川下の都市住民も、今よりも地元の木材を利用することで川上である林業が元気になり、そのことで森林の手入れが進む。森林環境税の議論もされていますが、寄付を通じた貢献もそのひとつ。税や寄付により川上へ、また木材の流通を通じた経済活動により川上へ、さらには共に汗をかき作業をすることで川上へ返していく、そういう流れ全体で京都の森林の機能を守り高めていくことを、利害関係者が共に考え方行動に移していくことこそが、協働ではないかと思っています。

森林と林業についての思いをお聞かせください

森林というのは公共財だと思っています。植わっている限りずっと残ります。持ち主がかわっても、山の姿は残り、世代を超えて受け継がれます。そして、そのままで環境を保全する役割を果たしているものです。これは国の宝物だと思います。その森林に関わることなので、こんなに環境に貢献できる仕事はないと、自分たちの仕事に誇りを持っています。皆さんには林業の実情と森林の果たす役割を知つてもらい、木材を積極的に使うことで応援していただけたらと思います。

PROFILE

北山で磨き丸太林の育成・販売を手掛ける。

京都市森林組合理事、京都北山丸太生産協同組合理事などを経て、平成27年から京都府林業士会会長。



京都の 森の仲間たち

一里山で人と思いをつなぐ



理事・事務局長 朝倉聰さん

里 山の広がる綾部市西部にある豊里西地区。同地で平成11年に廃校となった旧豊里西小学校の校舎は、改装され市の交流拠点施設「綾部市里山交流研修センター」として活用され、多様な都市農村交流の事業を展開している。

平 成18年には外観はそのままに宿泊施設に改装され、都市部からの宿泊者の受け入れも行っている。「小学校の校舎を一部の内装だけ変えてそのまま活用しています。皆さんには『懐かしい』と好評ですよ」事務局長の朝倉さんに案内していただいた。宿泊用の部屋名は「一年生」「二年生」と当時使われていたままの可愛らしい字のプレートが掛かる。廊下の隅におかれた木の椅子や子どもたちに読まれていた本などもそのままだ。施設内のパン焼き体験のできる石窯も人気だ。薪ストーブを備えた交流施設「幸喜山荘」は、月に一度地元FM局のスタジオとしても利用される。

綾 部市内では、オムロン綾部事業所、日東精工株式会社などの企業がモデルフォレスト運動として森林整備活動を行っているが、豊里西地区で活動を行っているのがグンゼ株式会社だ。また、間伐や間伐材を加工した木工作品づくりに取り組むNPO法人「間伐材研究所」も同センターや周辺を活動場所として活用している。



校舎内に今もかかる児童が製作した版画。
木材の搬出の様子が描かれている

では学生さんに放置竹林の整備などをしてもらいました。住



里 山ねっと・あやべは学生たちの受け入れにも積極的だ。「京都大学や立命館大学、龍谷大学などと連携して学生の皆さんにフィールドを提供しています。最近



NPO法人 里山ねっと・あやべ

第39回全国育樹祭

「平成27年度ふれあいの森づくり
国土緑化推進機構理事長賞受賞」

民の皆さんがチェーンソーで伐った雑木を片づけてもらったりしました。地域のニーズと、学生さんたちの関心や意欲を『つなぐ』お手伝いをすることで、地域の課題がひとつでも解決できればと思って

います」と朝倉さん。平成23年頃から、近隣の住民によるコ



整備されたツツジの尾根ハイキング

いろんな個人や団体が集まって活動できる『場づくり』が私たちの仕事。里山ねっとに集い、里山を再生させてきた住民やかかわった多くの皆さんが本当の受賞者です」と語る。

里山ねっと・あやべの挑戦はさらに続く。今後、京都府の進める「森の京都」構想のなかで、綾部西部里山交流エリアとして核となるべく検討中だ。これからも、里山をフィールドに様々な人や思いをつないでいく。



グンゼの森林整備活動の様子

バノミツバツツジの花が咲く古道の「つつじの咲く道づくり」としての再生に協力した。

こ うした活動が評価を受け、10月に岐阜県で開催された第39回全国育樹祭において「ふれあいの森づくり国土緑化推進機構理事長賞」を受賞した。「私たち自身がNPOとして森林づくりにかかわれる部分はごく限られています。でも、



丹州木材市場で開催された京都丹州もくもくフェスタにも実行員会として参加

所在地 京都府綾部市鍛冶屋町茅倉9
(綾部市里山交流研修センター)

電話 0773-47-0040

URL <http://ayabesatoyama.net/>





豊かな森を次世代へ

第40回全国育樹祭開催に向けて

全国育樹祭1年前キックオフイベント「育樹祭in宇治」開催

来秋開催の第40回全国育樹祭の1年前キックオフイベントとして、平成27年9月27日(日)、宇治市の京都府立山城総合運動公園内「ふれあいの森」において「育樹祭in宇治」が開催されました。当日は約50名が参加され、育樹活動(施肥)やクイズラリーを楽しみました。



同日開催

2015「国民参加の森林づくり」シンポジウム (場所:宇治市文化センター)

作家の池澤夏樹氏やカナダ・ケベック州木材製品輸出振興会理事長でFAO森林・林業委員会カナダ代表のシルヴァン・ラベ氏が講演。続いて「生物多様性が主流の明日へ一産・学・民・公は連携できるか」と題したパネルディスカッションを開催。会場では宇治茶によるおもてなしも行われ、約300名の参加者で賑わいました。



綾部市 堀 徳さん、緑の少年団育成功労賞受賞

10月11日岐阜県で開催された全国育樹祭において、綾部市の堀徳さんが緑の少年団育成功労賞を受賞されました。ガールスカウト第38団の発起人として活躍され、緑の少年団への参加にあたって尽力されてこられた堀さんに、お話を伺いました。

「祖父が林業をしていたこともあり、子どものころから山は遊び場でした。緑の少年団の活動は平成12年にはじめ、芋ほり、蕎麦や冬いちごのジャム、しいたけごはんをつくったりと、地域の皆さんとの協力を得ながら、少年団ならではの活動をさせてもらっています。中丹地域の交流会では、丹州木材市場の見

学をしたり、最近では府の農業大学校の実習林で樹木の勉強や森林整備の体験などもしました。過去には3年にわたり由良川源流から海までを踏破するツアーもやりました。自然と触れ合う中で、子どもたちはそれは嬉しそうにしてくれます。

子どもたちには、僕たちの後について、緑を愛し、森を愛し、やっていってほしい。それが人を愛することにも通じると思うんです。」と話してくださいました。



「体力がある限り一緒に活動を続けたい」と語る堀さん



事務局からのお知らせー活動報告ー



平成27年10月17日 南丹市内

第5回「Club J-WESTの森」森づくりイベント開催

スチールの森京都(府民の森ひよし)で、森林の様々な働きについてのお話のあと、広葉樹を抜き伐りし、残った木の生長を促しました。そのほか恒例のツリークライミングや自然観察会、木工体験なども好評。今回は地元の伝統的な技術で再現された炭焼窯「ひよし窯」の特別公開もあり、作業も体験いただきました。



平成27年10月31日 綾部市内

平成27年度「森の名手・名人」認定証授与式



国土緑化推進機構が毎年選定する「森の名手・名人」として今年度選定された綾部市古屋の渡邊ふじ子さんに認定証をお渡ししました。渡邊さんは、集落に伝承されてきた栎の実加工の技術を活かし「栎のおかげ」など特産品づくりに取り組んでおられ、その技術の伝承と地域の発展への貢献が認められ、府内で22人目の名手・名人として認定されました。当時は、これまでともに活動を続けてこられた岩崎キクノさん、細見恵美子さんをはじめ、古屋集落自主応援組織「古屋でがんばろう会」の皆さんにもお立ち会いいただきました。

緑の募金ご協力のお願い

緑の募金は、森づくりや緑化活動、「緑の少年団」活動に使われています。皆様のご協力をお願いいたします。

●郵便振替や銀行振込で

いつでも、どこでも、誰でも募金ができます。

1. 郵便振替

00990-1-83253

公益社団法人

京都モデルフォレスト協会

2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

理事長 柏原 康夫

ご協力ありがとうございました。

京都府中小企業団体中央会、京都中央信用金庫、ダイドードリンコ株式会社、

京都府ホンダ会、株式会社ブックレット、ワークエンジニアリング株式会社

※平成27年募金で10万円以上のご寄附をいただいた企業・団体(11月時点)

●商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。



ワタキューセイモア株式会社

発行:公益社団法人 京都モデルフォレスト協会
〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp> <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

2015年12月発行

入会案内資料をご希望の方は
ご連絡ください。

